

新型コロナウイルス感染症に関する情報流通調査

2020年6月

総務省 総合通信基盤局

電気通信事業部 消費者行政第二課

目次

	ページ 番号
調査趣旨・概要等	2
調査のポイント	3 - 5
調査方法	6
調査結果	
新型コロナウイルスの情報やニュースへの接触度	7
新型コロナウイルスの情報やニュースを見聞きした情報媒体	8
SNS等で見聞きした新型コロナウイルスの情報の出所・情報源	9
新型コロナウイルスの情報を知る際に利用する情報源やメディア・サービス	10
信頼できる新型コロナウイルスの情報の情報源やメディア・サービス	11
新型コロナウイルスに関する情報を見聞きした方法と収集に利用する方法の比較	12
新型コロナウイルスの情報を見聞きしてとった行動	13
新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報への接触状況	14
新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報の受容度	16
新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報を共有・拡散した経験	19
新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報を共有・拡散した理由	21
間違った情報や誤解を招く情報だと気づいたきっかけ	22
新型コロナウイルスに関する情報の真偽確認経験	23
新型コロナウイルスに関する情報の真偽確認方法	24
新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報を見聞きしたサービスやメディア	25
新型コロナウイルスに関する情報流通に関する意見	27
(参考) インターネットのサービスの利用頻度	28
(参考) インターネットのサービスの平均利用時間	29



調査趣旨・概要等

■ 調査趣旨

- 昨今、インターネット上のフェイクニュースや偽情報の問題が懸念されているところ、新型コロナウイルス感染症に関連して、間違った情報や誤解を招く情報（いわゆるデマ・フェイクニュース）の発生・拡散が顕在化しており、今後も被害拡大が懸念される。
- 新型コロナウイルス感染症に関するデマ・フェイクニュースの実態把握を行い、今後の対策を行うに当たって参考となる情報を得るため、当該情報に関する国民の接触・受容・拡散状況や、当該情報流通に関する意識について調査を行った。

■ 調査概要

- 対象者：普段、インターネットのサービスを週1日以上利用している15歳～69歳の男女。
※学業や仕事で利用している場合を除く。
- サンプル数：2,000件
- 調査方法：ウェブアンケート
アンケート調査会社の登録モニターから対象者を抽出、電子メールで告知し、回収をおこなった。
- 調査実施期間：2020年5月13日（水）～2020年5月14日（木）
- 調査地域：日本全国（47都道府県）



調査のポイント①

主にインターネット上の新型コロナウイルス感染症の情報やニュースに関する情報流通について、調査のポイントをまとめた。

新型コロナウイルスの情報やニュースへの接触度

- 95%以上の人平均して1日に1回以上、2割程度の人1日に10回以上、新型コロナウイルス感染症に関する情報やニュースを見聞きしている。

新型コロナウイルスの情報やニュースに関するメディア・サービスの利用度及び信頼度

- 新型コロナウイルス感染症に関する情報・ニュースを見聞きしたメディア・サービスは、「民間放送」(71.6%)、「Yahoo!ニュース」(62.6%)、「NHK」(50.5%)。
- 信頼できる情報源やメディア・サービスは「NHK」(43.7%)、「政府」(40.1%)、「民間放送」(38.0%)。

新型コロナウイルスの情報を見聞きしたことによる行動変容

- ほぼすべての人が推奨される予防法を行うようになった(96.8%)。
- 真偽不明の情報に基づいた予防法をとった(15.1%)、買いため(余分に購入)を行った(15.0%)人も一定の割合存在した。

新型コロナウイルスに関する間違っ た情報や誤解を招く情報への接触 状況及び受容度

- 具体的な17の新型コロナウイルス感染症に関する間違っ
た情報や誤解を招く情報について、一つでも見たり聞い
たりしたと答えた人の割合は72%であり、多くの人が新型コロナウイルス感染症に関するデマ・フェイクニュースを見
聞きしていた。全年代的に新型コロナウイルスに関するフェイクニュース・デマ情報に接触している傾向が見られた。
- 一つでも「正しい情報だと思った・情報を信じた」割合は28.8%、一つでも「正しい情報だと思った・情報を信じた」
あるいは「正しい情報かどうか分からなかった」の割合は76.7%となり、比較的多くの人が新型コロナウイルス感染
症に関する情報の真偽を判断できなかったという傾向が見られた。

新型コロナウイルスに関する間違っ た情報や誤解を招く情報を共有・拡 散した経験

- 具体的な17の新型コロナウイルス感染症に関する間違っ
た情報や誤解を招く情報を見聞きした場合に、共有・
拡散したことがあると答えた人の割合は35.5% (すべての人を母数とした場合の共有・拡散経験の割合は
19.5%)。
- 共有・拡散の方法については、「家族や友人、同僚などの会話・電話・メール」(29.2%)、「家族や友人、同
僚などのメッセージアプリ(LINEなど)」(11.8%)が多く、「SNSへの投稿」や「SNSでの拡散」の割合は低
かった(2.0%、2.6%)。

新型コロナウイルスに関する間違っ た情報や誤解を招く情報を見聞きし たサービスやメディア

- 具体的な17の新型コロナウイルス感染症に関する間違っ
た情報や誤解を招く情報 (いわゆるフェイクニュース・デ
マ) があたかも真実又は真偽不明の情報として書かれているのを見かけたことがあると答えた人は、サービス・メデ
ィア別にみると、「Twitter」(57.0%)、「ブログやまとめサイト」(36.5%)で見かけたことがある人の割合が高
かった。
- 「真実ではない」「誤解を招く」「フェイクニュース・デマである」というように注意喚起されているのを見かけたことがあ
ると答えた人は、サービス・メディア別にみると、「民間放送」(48.5%)、「Twitter」(45.4%)で見かけたことがあ
る人の割合が高かった。

※それぞれのサービス・メディアの利用者(当該サービス・メディアで新型コロナウイルスに関する情報・ニュースを見聞きしたことがあると答えた人)を母数と
して割合を集計



調査のポイント②

新型コロナウイルス感染症に関する情報流通に関する意見は以下のとおり。

- 新型コロナウイルス感染症に関する情報の判断や、正しい情報の入手方法について、多数の人が困難を抱えている。
- 多数の人は、新型コロナウイルス感染症に関する情報をもっと入手したいと感じている。
- テレビ放送局、新聞社、ニュースポータルサイト・アプリについて、新型コロナウイルス感染症についての深刻さや正しい情報を報道していると評価している人の方が多い。
- 他方で、SNS事業者については、新型コロナウイルス感染症に関する情報流通全般の対応、ユーザに対して正しい情報を届けるための工夫、間違った情報や誤解を招く情報が表示されないための工夫について、適切に行っていないと評価している人の方が多い。また、SNS事業者がどのような取組を行っているのかわからないと答えた人の方が多い。
- ファクトチェックについては、新型コロナウイルス感染症に対する情報についてファクトチェックが積極的行われることや、SNS事業者がファクトチェック結果をユーザに届ける必要性を多数の人が感じている。
- 政府が正しい情報を届けるための工夫を適切に行っているかについては、評価していない人の方が多い。



調査のポイント③

新型コロナウイルス感染症に関する情報流通に関して、調査結果から得られた今後期待される方向性は以下のとおり。

- 放送メディアは、新型コロナウイルス感染症に関する情報源としての利用度・信頼度が共に高いことのみならず、怪しい情報の真偽確認方法や、間違った情報や誤解を招く情報だと気づいたきっかけとしても高い割合を占めることから、引き続き、放送メディアにはニュースメディアとしての重要な役割が期待される。
- ニュース系アプリ・サイトは、新型コロナウイルス感染症に関する情報源としての利用度が高く、重要なニュースメディアとしての役割が求められる。他方で、高い利用度と比べると、信頼度が相対的に低いことから、信頼度を高める工夫を行っていくことが期待される。
- 政府による新型コロナウイルス感染症に関する情報発信は、信頼度は高いものの利用度が低いことから、情報配信方法を工夫することにより利用度を高める必要がある。
- SNSは、新型コロナウイルス感染症に関する情報源としての利用度・信頼度がそれほど高くないものの、若い年代における利用度は非常に高いことから、若い年代に対して影響力が大きいサービス・メディアである。また、SNS等で見聞きした新型コロナウイルス感染症の情報の出所・情報源については、放送メディアや政府の情報発信といった信用度の高い情報が高い割合を占めており、そのような信頼性の高い情報の流通にも寄与している点が注目される。この点、新型コロナウイルス感染症に関する情報流通全般の対応についての評価が低いことから、信頼度を高める工夫や、透明性を高める工夫、ファクトチェック結果を届ける工夫などを行っていくことが期待される。
- 新型コロナウイルス感染症に関する間違った情報や誤解を招く情報について、若い年代ほど情報を信じてしまった割合や情報を拡散してしまった割合が高くなる傾向が見られたことから、特に若い年代に対してリテラシー向上の取組を充実させていくことが必要である。
- 新型コロナウイルス感染症に関する情報が怪しいと思った場合の情報について、年代が若いほど真偽を調べる割合が高い傾向が見られたが、同時に若い年代ほど情報を信じてしまった割合や情報を拡散してしまった割合が高いことから、若い年代は適切な情報の真偽確認方法を身につける必要がある。この点、若い年代は、真偽確認方法として「SNS内での検索」の割合が相対的に高い点から、SNS事業者の取組が期待される。



1. 調査方法

項目	内容						
発送・回収	・ ウェブアンケート アンケート調査会社の登録モニターから対象者を抽出、電子メールで告知し、回収をおこなった。						
対象	・ 対象者：普段、インターネットのサービスを週1日以上利用している15歳～69歳の男女。 ※学業や仕事で利用している場合を除く。						
標本数	・ 回収標本数：2,000件						
		10代	20代	30代	40代	50代	60代
	男性	100	200	200	200	200	100
	女性	100	200	200	200	200	100
	※10代は15歳以上が対象。						
標本数	・ 補正後の標本数：2,000件 ※補正後の件数は整数でないため、報告書での小数点第1位を四捨五入して表記した件数を合算した件数が全体の件数と一致しない場合がある。						
		10代	20代	30代	40代	50代	60代
	男性	66	158	176	228	199	194
	女性	67	149	168	214	191	192
実施時期	・ 2020年5月13日（水）～2020年5月14日（木）						
実施地域	・ 日本全国（47都道府県）						
備考	本調査の結果は、対象者抽出のために実施した事前調査において出現した調査条件該当者の人口構成比率に合わせ補正した数値（％）を使用した。 1. 事前調査で回収した標本の地域別、性別、年代別の構成比率を総務省統計局「人口推計」（2019年10月1日現在人口）に合わせる。その後、調査対象条件に合致した標本の地域別、性別、年代別の構成比率を算出。 2. 算出した地域別、性別、年代別の構成比率に準じて本調査の標本を補正した。その後、集計を行い調査結果を算出した。 ※地域別は11地域（北海道、東北、北関東、首都圏、甲信越・北陸、東海、近畿(京阪神除く)、京阪神、中国、四国、九州・沖縄）、年代別は10歳区分年齢（10代の区分は15～19歳）とした。						

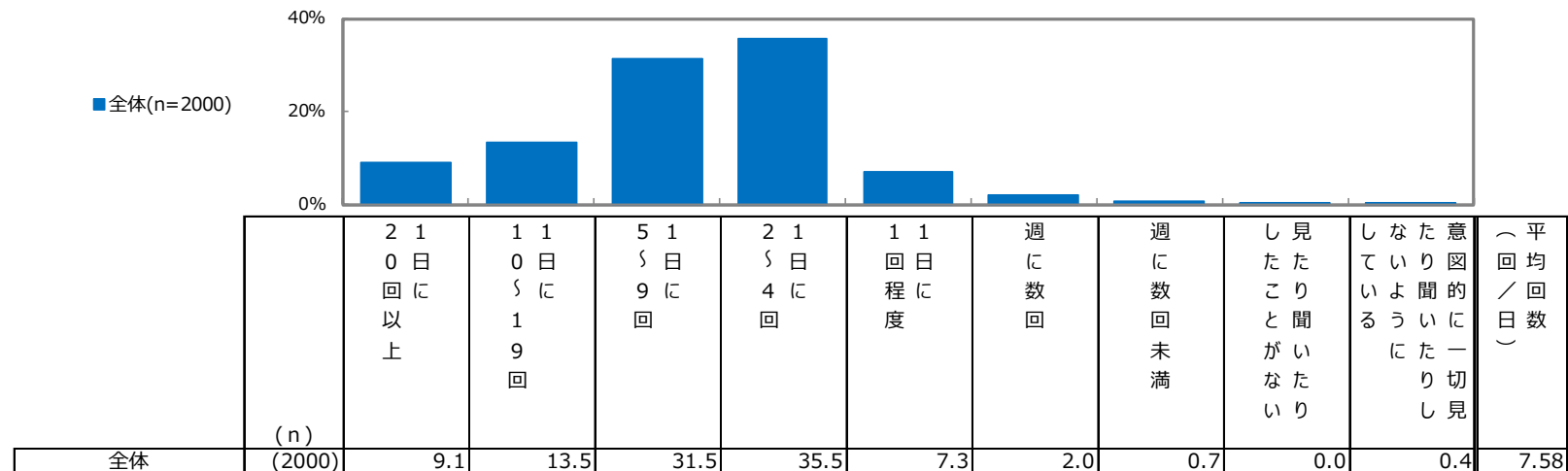


新型コロナウイルスの情報やニュースへの接触度

- 95%以上の人、平均して1日に1回以上新型コロナウイルスに関する情報やニュースを見たり聞いたりしていた。
- 2割程度の人、1日に10回以上新型コロナウイルスに関する情報やニュースを見たり聞いたりしていた。

Q1.直近の1ヶ月の間で、新型コロナウイルスに関する情報やニュースを見たり聞いたりした頻度は、平均してどれくらいですか。【SA】

対象：全員

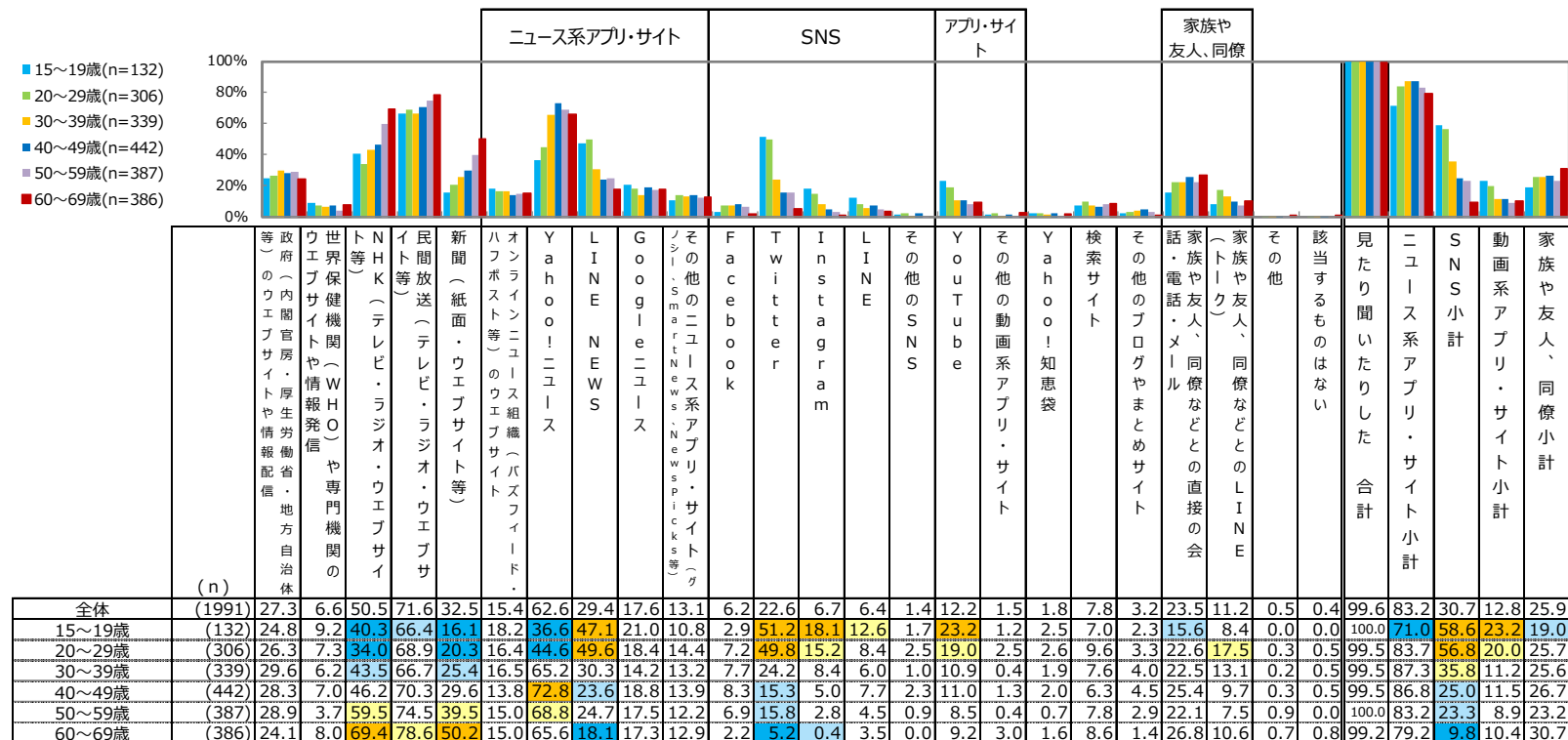


新型コロナウイルスの情報やニュースを見聞きした情報媒体

- 新型コロナウイルスの情報やニュースを見聞きした情報媒体については、「民間放送」(71.6%)、「Yahoo!ニュース」(62.6%)、「NHK」(50.5%)の順に高い結果となった。
- 「ニュース系アプリ・サイト」全体では83.2%、「SNS」全体では30.7%、「家族や友人、同僚」は25.9%となった。
- 個別のSNSの中では、「Twitter」(22.6%)が最も高い結果となった。
- 年代別に見ると、若年層(10~20代)は「LINE NEWS」「Twitter」「Youtube」「Instagram」といった手段が他の年代より高い割合となっており、「NHK」「新聞」「Yahoo!ニュース」の割合が他の年代より低かった。

Q2.直近の1ヶ月の間で、どのような方法で新型コロナウイルスに関する情報を見たり聞いたりしましたか。当てはまるものをすべて選択してください。(いくつでも)【MA】

対象：直近1ヶ月間で、新型コロナウイルスの情報を見聞きした人

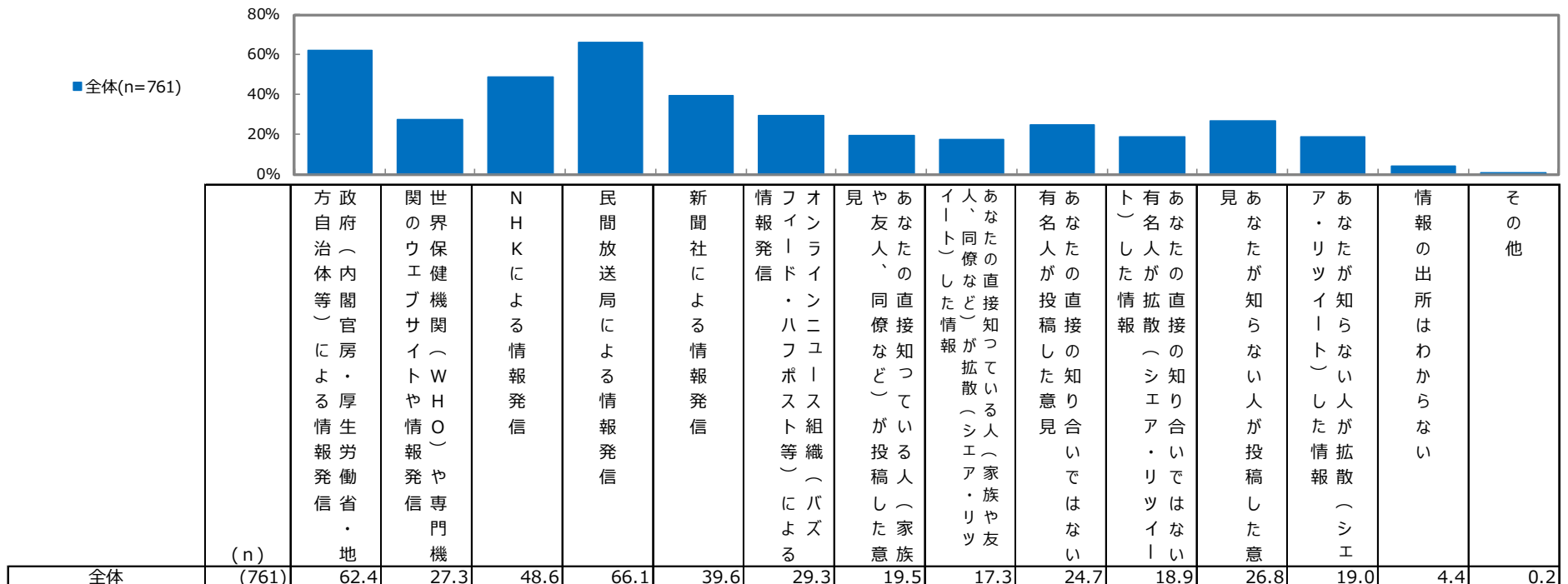


SNS等で見聞きした新型コロナウイルスの情報の出所・情報源

- SNS等で見聞きした新型コロナウイルスの情報の出所・情報源については、「民間放送」（66.1%）、「政府」（62.4%）、「NHK」（48.6%）の順に高い結果となり、放送メディアや政府が発信する情報がSNSや検索エンジンを介して多く受容されている傾向が見られた。
- 他方、新型コロナウイルスに関して知人や有名人が投稿・拡散した情報を見たり聞いたりした人の割合は2割前後となり、それほど多くなかった。

Q3. ■前問で、直近の1ヶ月間で、SNSや検索エンジンなどで新型コロナウイルスに関する情報を見たり聞いたりした方にお伺いします ■それらの情報の出所・情報源として当てはまるものをすべて選択してください。（いくつでも）【MA】

対象：直近1ヶ月間で、SNSや検索エンジンなどで新型コロナウイルスの情報を見聞きした人

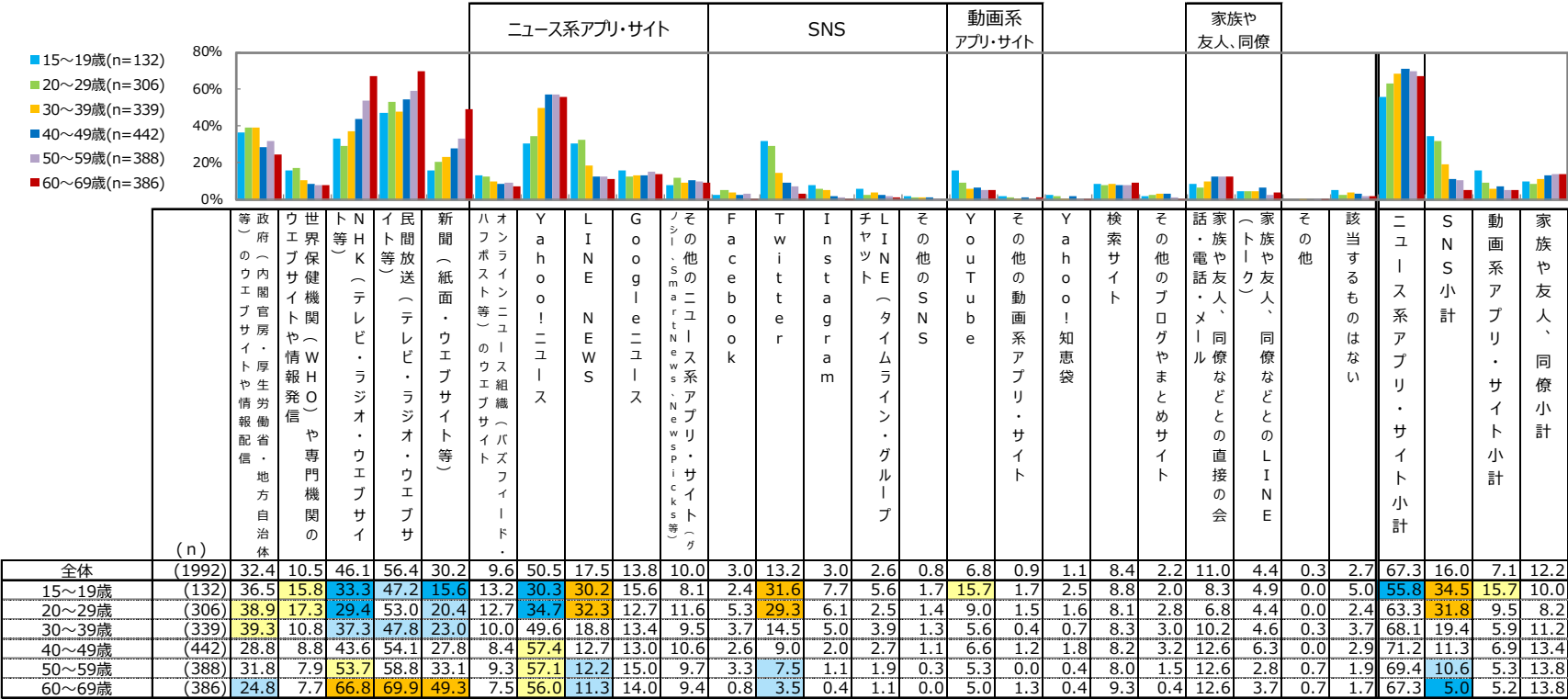


新型コロナウイルスの情報を知る際に利用する情報源やメディア・サービス

- 新型コロナウイルスに関して情報を知りたいと思った際に利用する情報源やメディア・サービスについては、「民間放送」(56.4%)、「Yahoo!ニュース」(50.5%)、「NHK」(46.1%)の順に高い結果となった。新型コロナウイルスに関する情報を見たり聞いたりした場合の情報の出所・情報源と同様の傾向となった。
- 年代別に見ると、若年層(10～20代)は、「LINE NEWS」「Twitter」といった手段が他の年代と比較して高い割合となっており、「NHK」「新聞」「Yahoo!ニュース」の割合が低くなった。
- 他方、60代は、「NHK」「民間放送」「新聞」と答えた割合が他の年代と比較して高くなった。

Q4.あなたにとって、新型コロナウイルスに関して情報を知りたいと思った際に利用する情報源やメディア・サービスはどれですか。当てはまるものをすべて選択してください。(いくつでも)【MA】

対象：直近1ヶ月間で、新型コロナウイルスの情報を見聞きた人（見なかった人を含む）

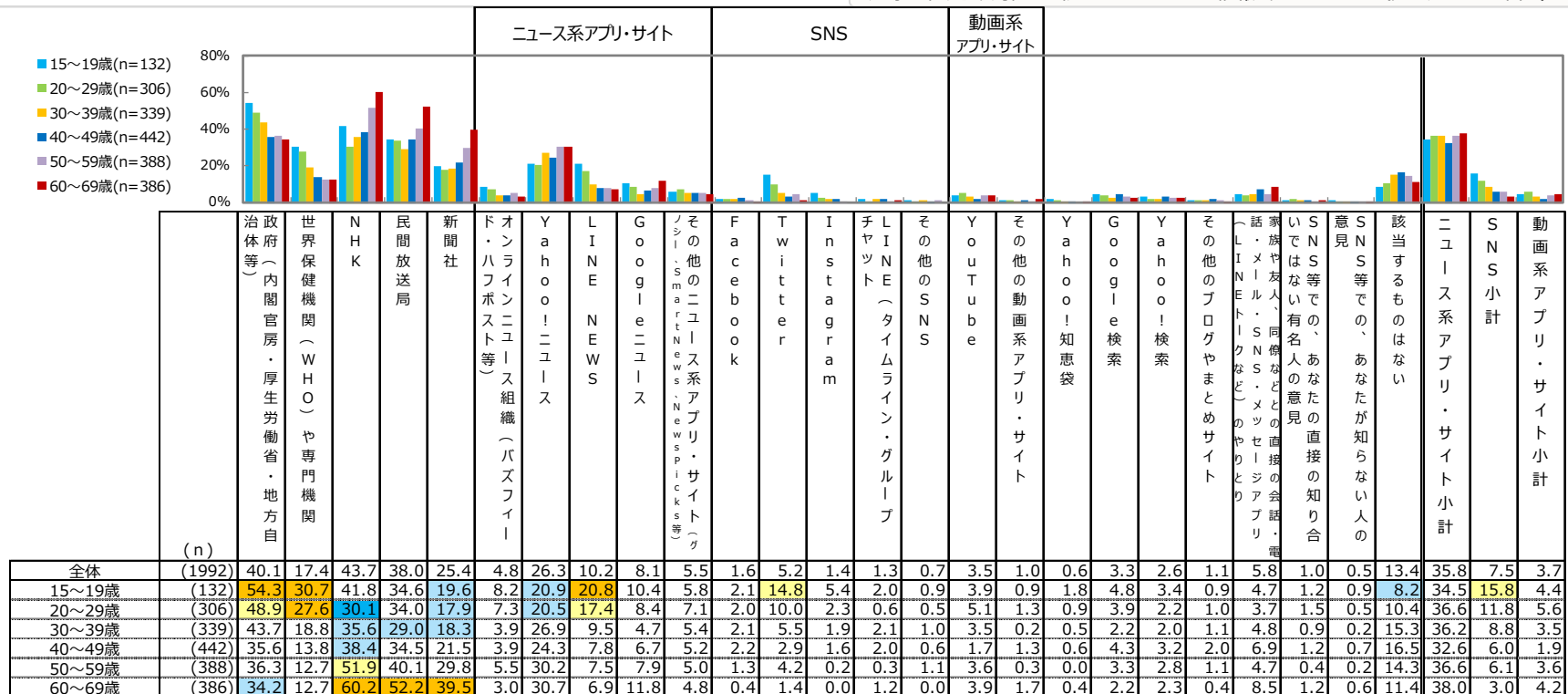


信頼できる新型コロナウイルスの情報の情報源やメディア・サービス

- 新型コロナウイルスに関して、特に信用できる情報源やメディア・サービスについては、「NHK」(43.7%)、「政府」(40.1%)、「民間放送」(38.0%)の順に高い結果となった。
- 年代別に見ると、若年層(10~20代)は、「政府」「世界保健機関(WHO)や専門機関」「LINE NEWS」「Twitter」といった手段が他の年代と比較して高い割合となっており、「新聞」「Yahoo!ニュース」の割合が低くなった。
- 他方、60代は、「NHK」「民間放送」「新聞」と答えた割合が他の年代と比較して高くなった。

Q5.あなたにとって、新型コロナウイルスに関する情報について、以下の情報源やメディア・サービスをどれほど信用していますか。特に信用できる情報源やメディア・サービスをすべて選択してください。(いくつでも)【MA】

対象：直近1ヶ月間で、新型コロナウイルスの情報を聞ききた人（見なかった人を含む）

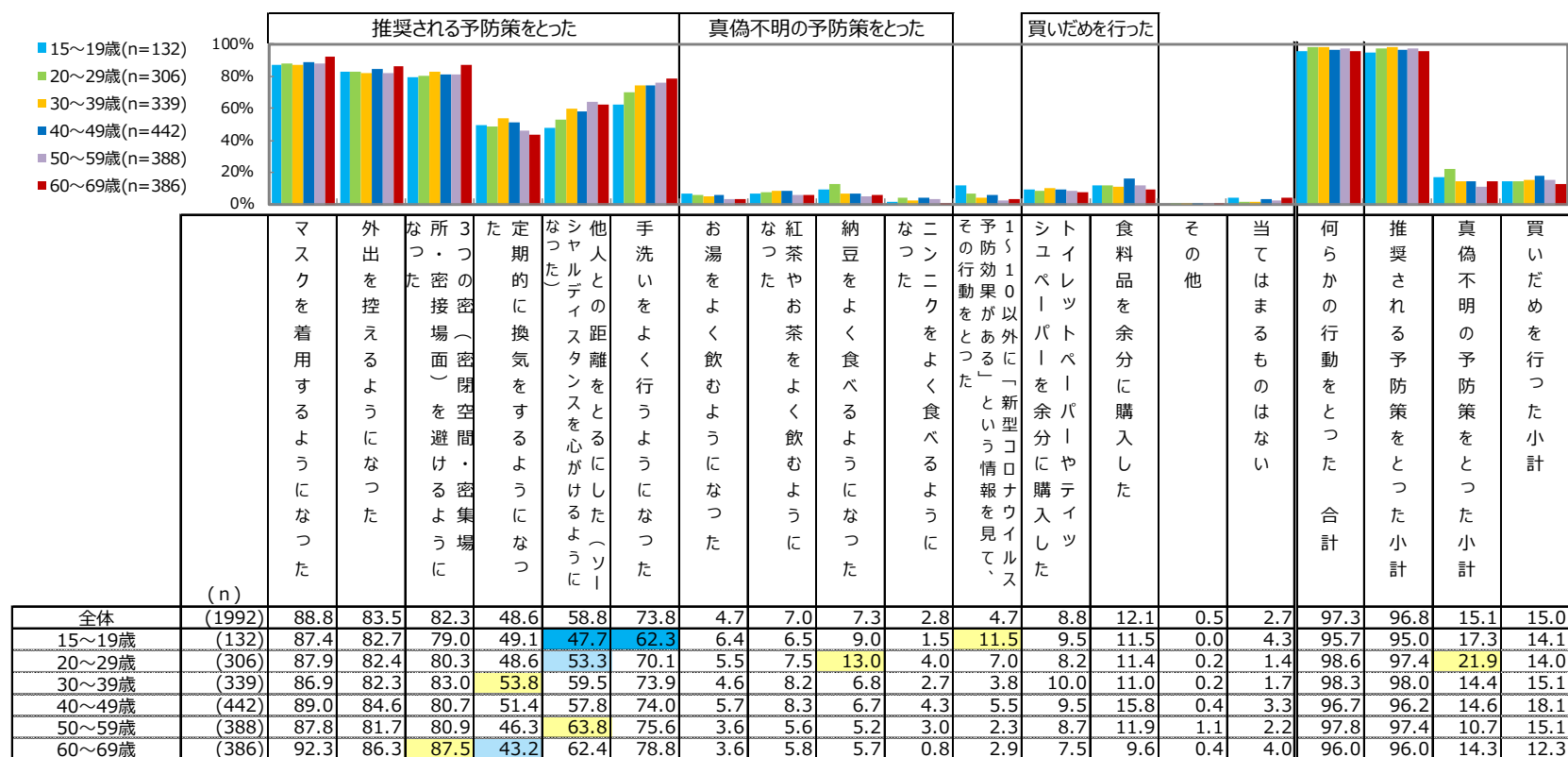


新型コロナウイルスの情報を見聞きしてとった行動

- 新型コロナウイルスに関する情報を見た・聞いたことによる行動変容については、ほぼすべての人が推奨される予防法を行うようになったと答えた（96.8%）。
- 他方で、真偽不明の情報に基づいた予防法をとったと答えた割合が15.1%、トイレトペーパー・ティッシュペーパー・食料品等の買いため（余分に購入）を行ったと答えた割合が15.0%となった。

Q6. 新型コロナウイルスに関する情報を見た・聞いたことにより、あなたはどのような行動をとりましたか。当てはまるものをすべて選んでください。（いくつでも）【MA】

対象：直近1ヶ月間で、新型コロナウイルスの情報を見聞きした人（見なかった人を含む）

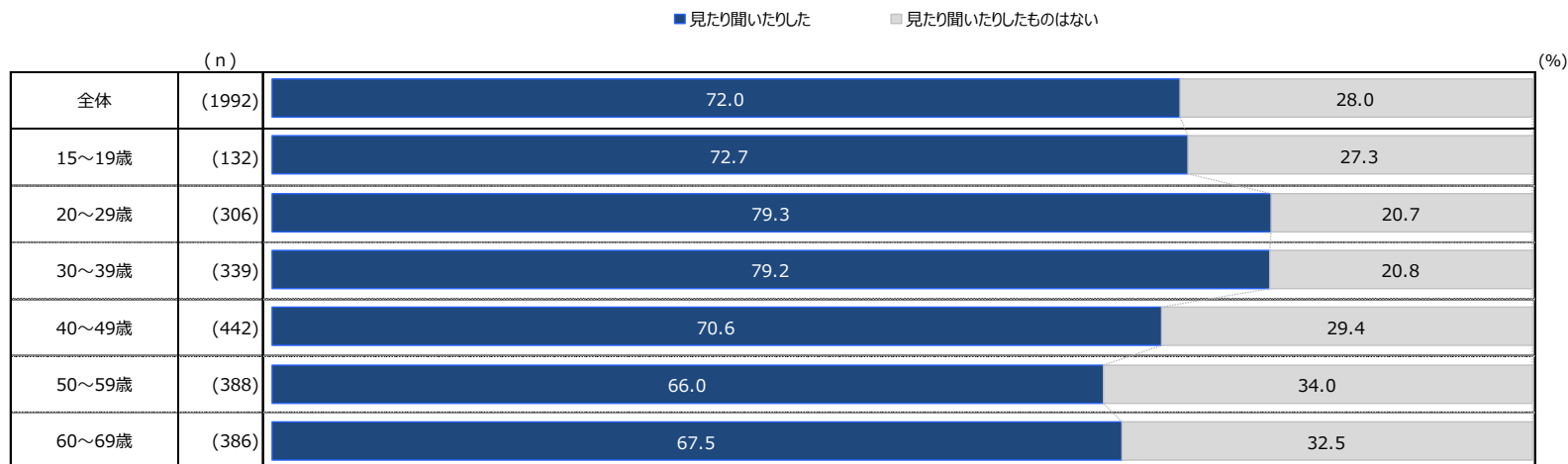


新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報への接触状況（全体）

- 新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報（いわゆるフェイクニュース・デマ）への接触状況について、次ページに掲載した17の情報について、一つでも見たり聞いたりしたと答えた人の割合は72%となり、およそ4人中3人が新型コロナウイルスに関するフェイクニュース・デマ情報に触れているとの結果が見られた。
- 年代別に見ると、20代-30代の接触度が比較的高く（79.3%、79.2%）、50代-60代の接触度が比較的低かった（66.0%、67.5%）ものの、全年代的に新型コロナウイルスに関するフェイクニュース・デマ情報に接触している傾向が見られた。

Q7.以下に記載した情報は、4/28時点で、メディアやファクトチェック機関によりファクトチェック（※ファクトチェック：偽情報に対抗するために、情報の真偽を検証する活動のこと）され、間違った情報や誤解を招く情報（いわゆるフェイクニュース・デマ）であると評価されている情報です。新型コロナウイルスに関して、これまでの間、以下の情報を見たり聞いたりしましたか。見たり聞いたりしたことがある情報をすべて選択してください。（いくつでも）【MA】

対象：直近1ヶ月間で、新型コロナウイルスの情報を見聞きした人（見なかった人を含む）

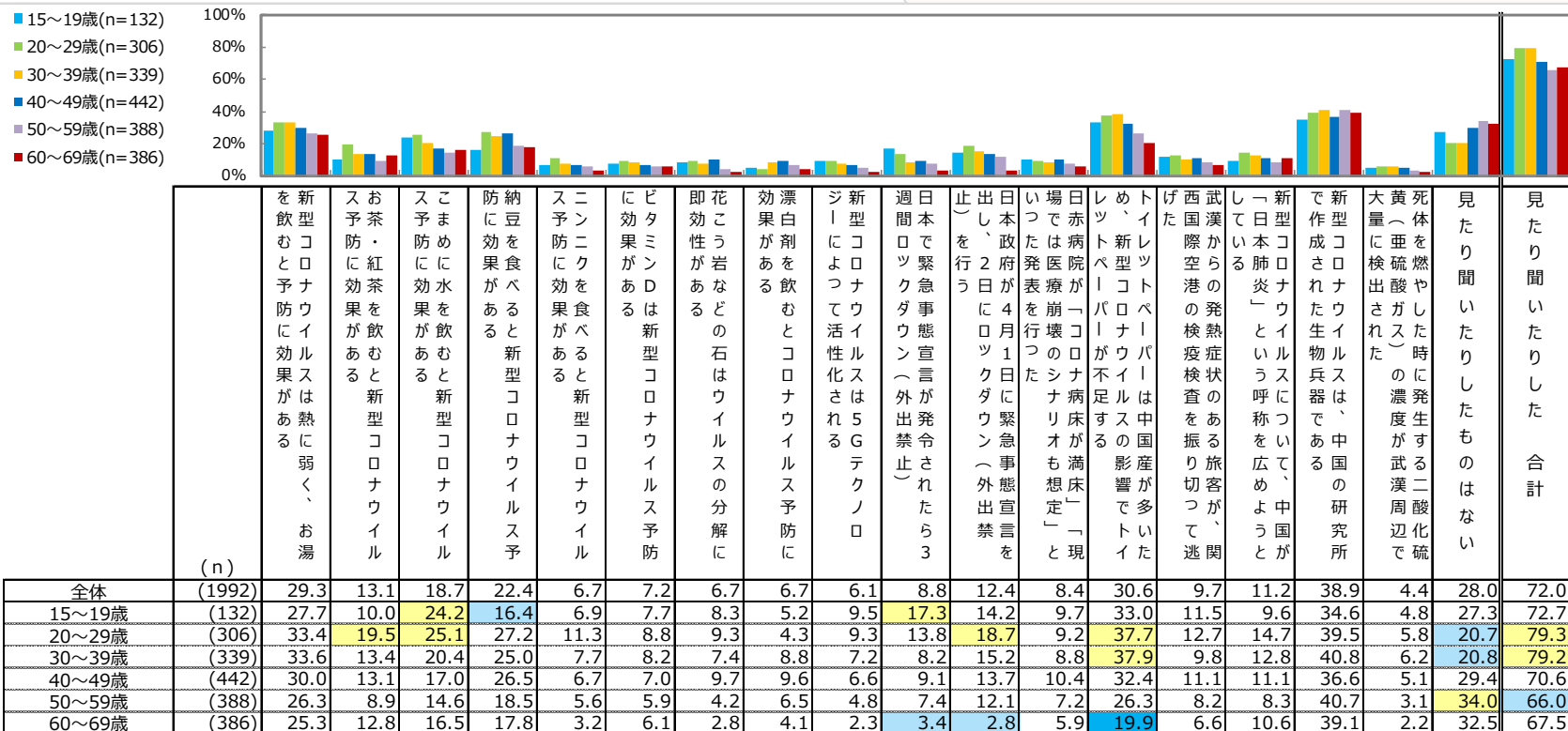


新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報への接触状況(個別)

- 新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報（いわゆるフェイクニュース・デマ）への接触状況について、個別の情報ごとに見ると、見たり聞いたりしたと答えた割合が高かった情報は、「新型コロナウイルスは、中国の研究所で作成された生物兵器である」（38.9%）、「トイレトペーパーは中国産が多いため、新型コロナウイルスの影響でトイレトペーパーが不足する」（30.6%）、「新型コロナウイルスは熱に弱く、お湯を飲むと予防に効果がある」（29.3%）の順となった。

Q7. 以下に記載した情報は、4/28時点で、メディアやファクトチェック機関によりファクトチェック(※ファクトチェック:偽情報に対抗するために、情報の真偽を検証する活動のこと)され、間違った情報や誤解を招く情報(いわゆるフェイクニュース・デマ)であると評価されている情報です。新型コロナウイルスに関して、これまでの間、以下の情報を見たり聞いたりしましたか。見たり聞いたりしたことがある情報をすべて選択してください。(いくつでも)【MA】

対象：直近1ヶ月間で、新型コロナウイルスの情報を見聞きした人（見なかった人を含む）



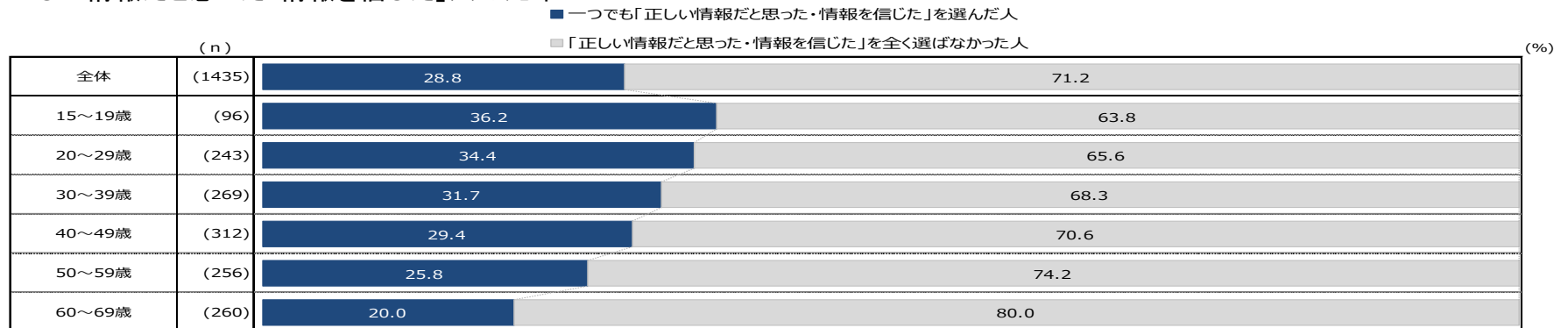
新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報の受容度(全体)

- 具体的な17の新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報（次ページ参照。いわゆるフェイクニュース・デマ）について、一つでも「正しい情報だと思った・情報を信じた」を選んだ人の割合は28.8%であり、若い年代ほど情報を信じてしまった割合が高くなる傾向が見られた。
- 一つでも「正しい情報だと思った・情報を信じた」あるいは「正しい情報かどうかわからなかった」を選んだ人の割合は76.7%となり、比較的多くの人が新型コロナウイルスに関する情報の真偽を判断できなかったという傾向が見られた。

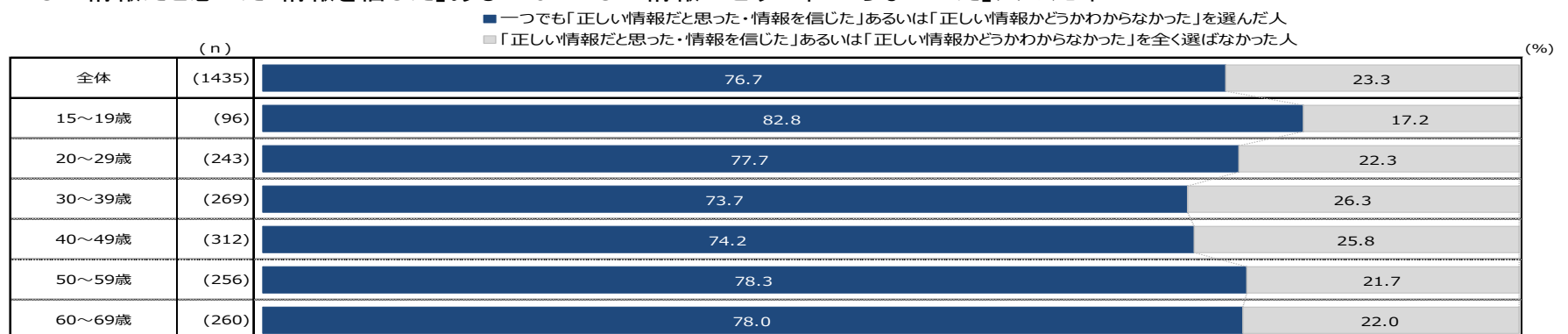
Q8.前問で、新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報(いわゆるフェイクニュース・デマ)を見た・聞いたことがあると回答した方に伺います。前問で見た・聞いたことがあると回答した新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報について、その情報を初めて見た・聞いたときにどのように思いましたか。※この設問は、それぞれ横方向(→)にお答えください。【SA】

対象：新型コロナウイルスのフェイクニュース・デマを見聞きした人

■「正しい情報だと思った・情報を信じた」人の比率



■「正しい情報だと思った・情報を信じた」あるいは「正しい情報かどうかわからなかった」人の比率



新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報の受容度(個別)

• 具体的な17の新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報は以下のとおり。

1. 新型コロナウイルスは熱に弱く、お湯を飲むと予防に効果がある
2. お茶・紅茶を飲むと新型コロナウイルス予防に効果がある
3. こまめに水を飲むと新型コロナウイルス予防に効果がある
4. 納豆を食べると新型コロナウイルス予防に効果がある
5. ニンニクを食べると新型コロナウイルス予防に効果がある
6. ビタミンDは新型コロナウイルス予防に効果がある
7. 花こう岩などの石はウイルスの分解に即効性がある
8. 漂白剤を飲むとコロナウイルス予防に効果がある
9. 新型コロナウイルスは5Gテクノロジーによって活性化される
10. 日本で緊急事態宣言が発令されたら3週間ロックダウン(外出禁止)
11. 日本政府が4月1日に緊急事態宣言を出し、2日にロックダウン(外出禁止)を行う
12. 日赤病院が「コロナ病床が満床」「現場では医療崩壊のシナリオも想定」といった発表を行った
13. トイレtpーパーは中国産が多いため、新型コロナウイルスの影響でトイレtpーパーが不足する
14. 武漢からの発熱症状のある旅客が、関西国際空港の検疫検査を振り切つて逃げた
15. 新型コロナウイルスについて、中国が「日本肺炎」という呼称を広めようとしている
16. 新型コロナウイルスは、中国の研究所で作成された生物兵器である
17. 死体を燃やした時に発生する二酸化硫黄(亜硫酸ガス)の濃度が武漢周辺で大量に検出された

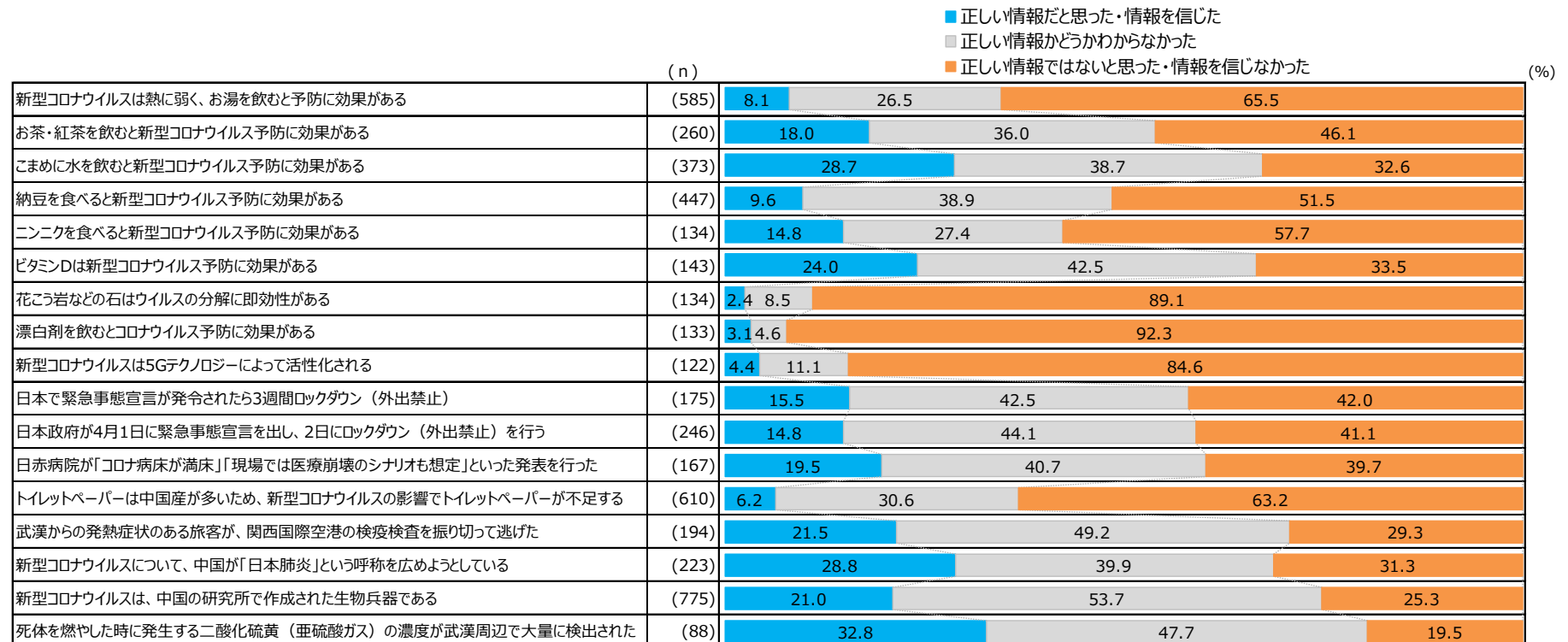


新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報の受容度(個別)

- 個別の情報ごとに見ると、「正しい情報だと思った・情報を信じた」と答えた人の割合が高かった情報は、「死体を燃やした時に発生する二酸化硫黄（亜硫酸ガス）の濃度が武漢周辺で大量に検出された」（32.8%）、「新型コロナウイルスについて、中国が「日本肺炎」という呼称を広めようとしている」（28.8%）、「こまめに水を飲むと新型コロナウイルス予防に効果がある」（28.7%）の順となった。
- また、「正しい情報ではないと思った・情報を信じなかった」と答えた人の割合が高かった情報は、「漂白剤を飲むとコロナウイルス予防に効果がある」（92.3%）、「花こう岩などの石はウイルスの分解に即効性がある」（89.1%）、「新型コロナウイルスは5Gテクノロジーによって活性化される」（84.6%）の順となった。他方で、その他の情報については「正しい情報ではないと思った・情報を信じなかった」と答えた人の割合は3割～6割程度となっており、間違った情報や誤解を招く情報について、情報を信じてしまった人や正しい情報がわからなかった人が相当数存在した。

Q8.前問で、新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報(いわゆるフェイクニュース・デマ)を見た・聞いたことがあると回答した方に伺います。前問で見た・聞いたことがあると回答した新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報について、その情報を初めて見た・聞いたときにどのように思いましたか。※この設問は、それぞれ横方向(→)にお答えください。【SA】

対象：Q8の新型コロナウイルスのフェイクニュース・デマを見聞きした人

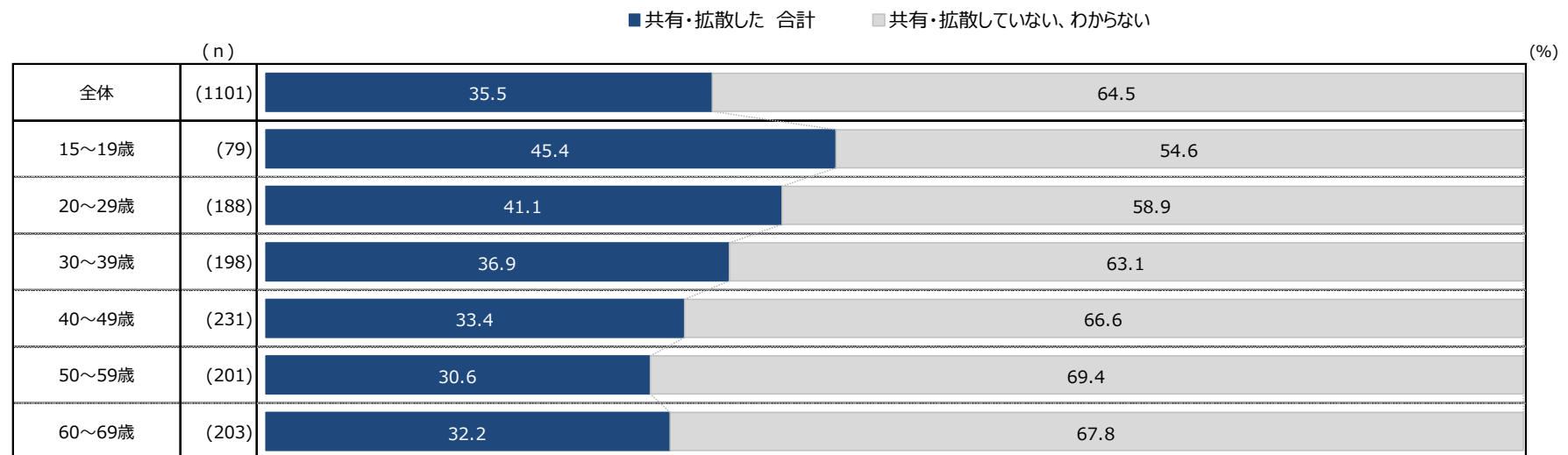


新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報を共有・拡散した経験①

- 具体的な17の新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報を見たり聞いたりして、「正しい情報と思った・情報を信じた」又は「正しい情報かわからなかった」場合に、それらの情報について1つでも共有・拡散を経験したことがあると答えた人の割合は35.5%となった（すべての人を母数とした場合の共有・拡散経験の割合は19.5%）。
- 年代別で見ると、若い年代ほど共有・拡散経験が高い傾向が見られた（10代：45.4%、20代：41.1%）。

Q9.前問で、新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報（いわゆるフェイクニュース・デマ）について「正しいと思った・情報を信じた」又は「正しい情報かどうかかわからなかった」と答えた方に伺います。その情報を他の人と共有・拡散したことがありますか。当てはまるものをすべて選択してください。（いくつでも）※Q8で「正しいと思った・情報を信じた」又は「正しい情報かどうかかわからなかった」とお答えになった情報【MA】

対象：新型コロナウイルスに関するフェイクニュース・デマを「正しいと思った・情報を信じた」又は「正しい情報かどうかかわからなかった」と答えた人

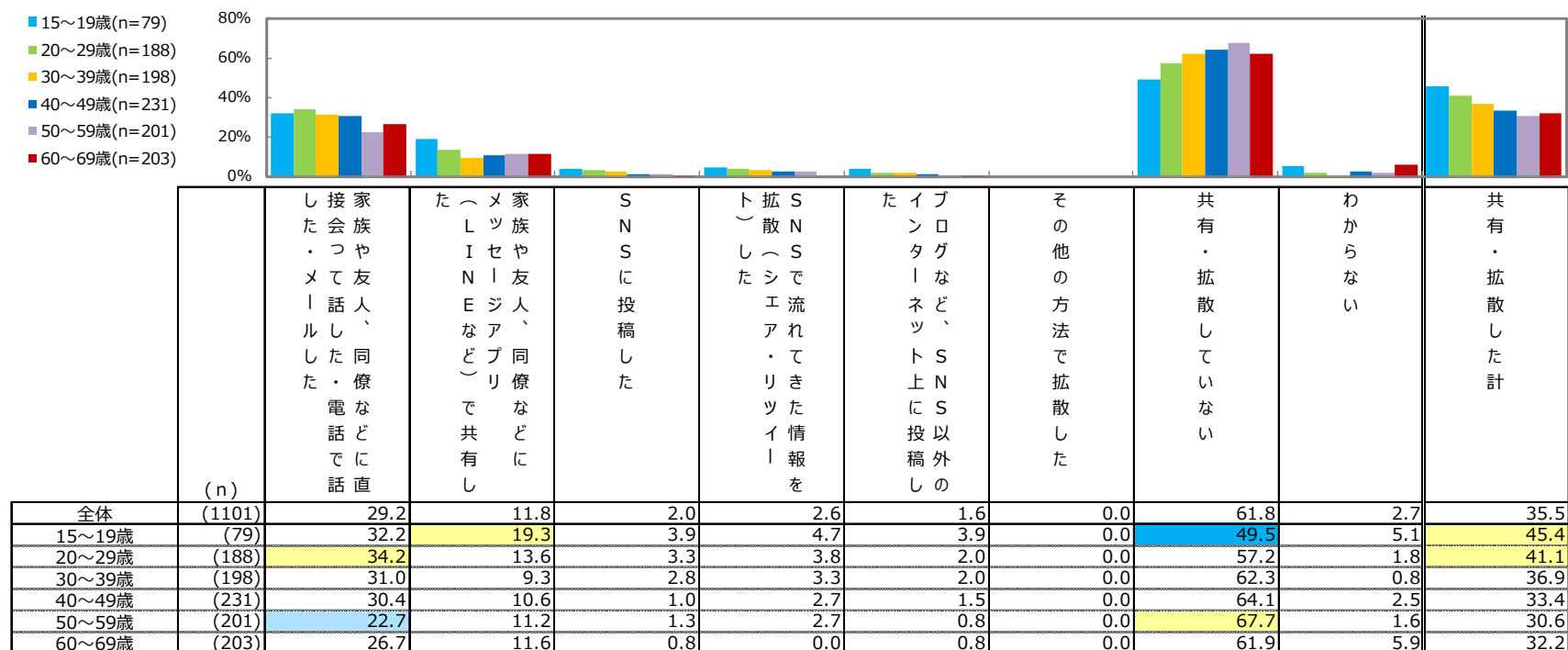


新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報を共有・拡散した経験②

- 共有・拡散の方法については、「家族や友人、同僚などとの会話・電話・メール」（29.2%）、「家族や友人、同僚などとのメッセージアプリ（LINEなど）」（11.8%）となった。
- 「SNSへの投稿」や「SNSでの拡散」については、それぞれ2.0%、2.6%となり、他の方法と比較して低い結果となった。
- いずれの方法についても、若い年代ほど共有・拡散経験が高い傾向が見られた。

Q9.前問で、新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報（いわゆるフェイクニュース・デマ）について「正しいと思った・情報を信じた」又は「正しい情報かどうかわからなかった」と答えた方に伺います。その情報を他の人と共有・拡散したことがありますか。当てはまるものをすべて選択してください。（いくつでも）※Q8で「正しいと思った・情報を信じた」又は「正しい情報かどうかわからなかった」とお答えになった情報【MA】

対象：新型コロナウイルスに関するフェイクニュース・デマを「正しいと思った・情報を信じた」又は「正しい情報かどうかわからなかった」と答えた人

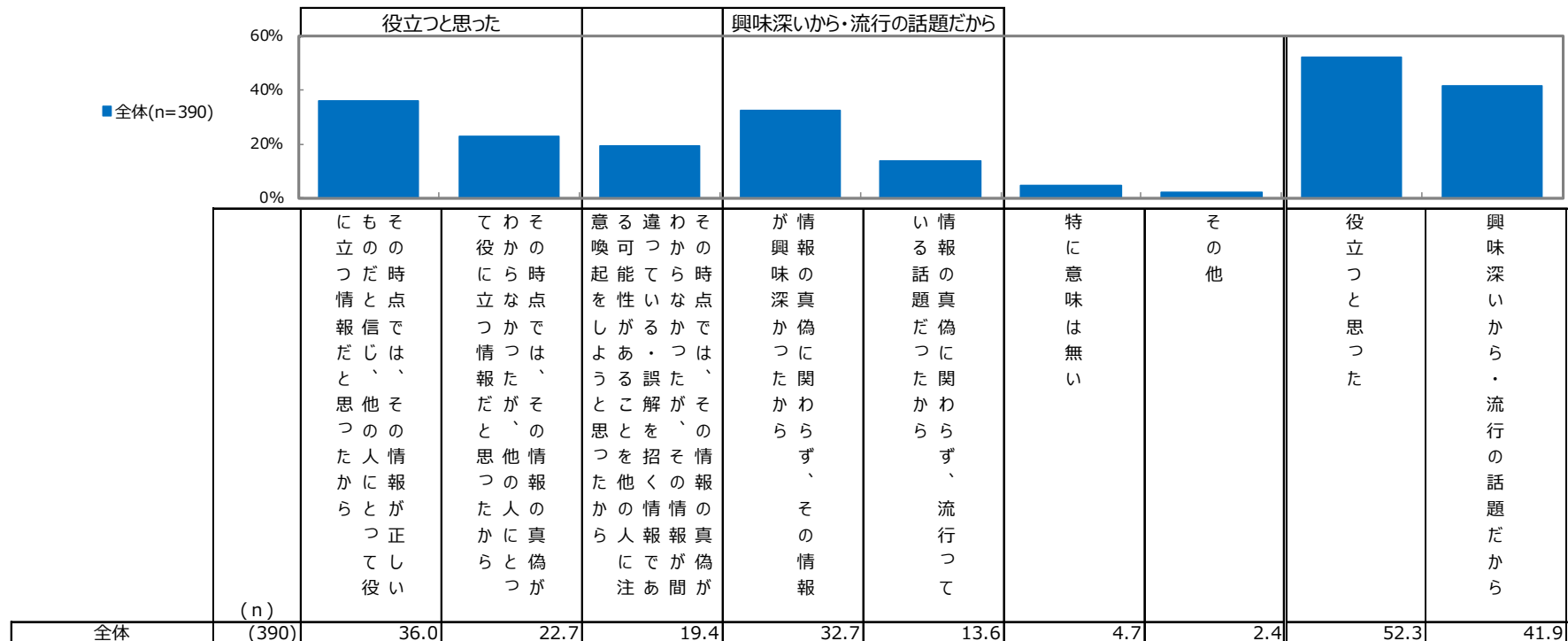


新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報を共有・拡散した理由

- 具体的な17の新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報を見たり聞いたりして、「正しい情報と思った・情報を信じた」又は「正しい情報かわからなかった」場合に、それらの情報について1つでも共有・拡散経験した理由について、「その時点では、その情報が正しいものだ信じ、他の人にとって役に立つ情報だと思ったから」（36.0%）、「情報の真偽に関わらず、その情報が興味深かったから」（32.7%）となった。
- 情報の真偽が不明な場合でも、「興味深い」「人の役に立つ」「注意喚起」といった理由で共有・拡散する人が一定数存在する傾向が見られた。

Q10.前問で、新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報(いわゆるフェイクニュース・デマ)を共有・拡散したことがあると答えた方にお伺いします。あなたはなぜその情報を共有・拡散しましたか。理由として当てはまるものをすべて選択してください。(いくつでも)※Q8で「正しい情報かどうかわからなかった」とお答えになった情報【MA】

対象：新型コロナウイルスに関するフェイクニュース・デマを共有・拡散したことがある人



- 新型コロナウイルスに関する情報について、最初は「正しいと思った・情報を信じた」又は「正しい情報かどうかわからなかった」と思った情報が後に間違った情報や誤解を招く情報だと気づいた理由としては、「あとからテレビ放送局の報道で知った」（33.2%）が最も高い結果となった。
- 他方で、「あとからファクトチェック結果を見て知った」（3.2%）は低い結果となった。
- 年代別に見ると、10代-20代は「あとからSNS（Facebook、Twitter、Instagramなど）の情報で知った」と答えた割合が他の年代より高かった。

対象：新型コロナウイルスに関するフェイクニュース・デマを「正しいと思った・情報を信じた」又は「正しい情報かどうかわからなかった」と答えた人

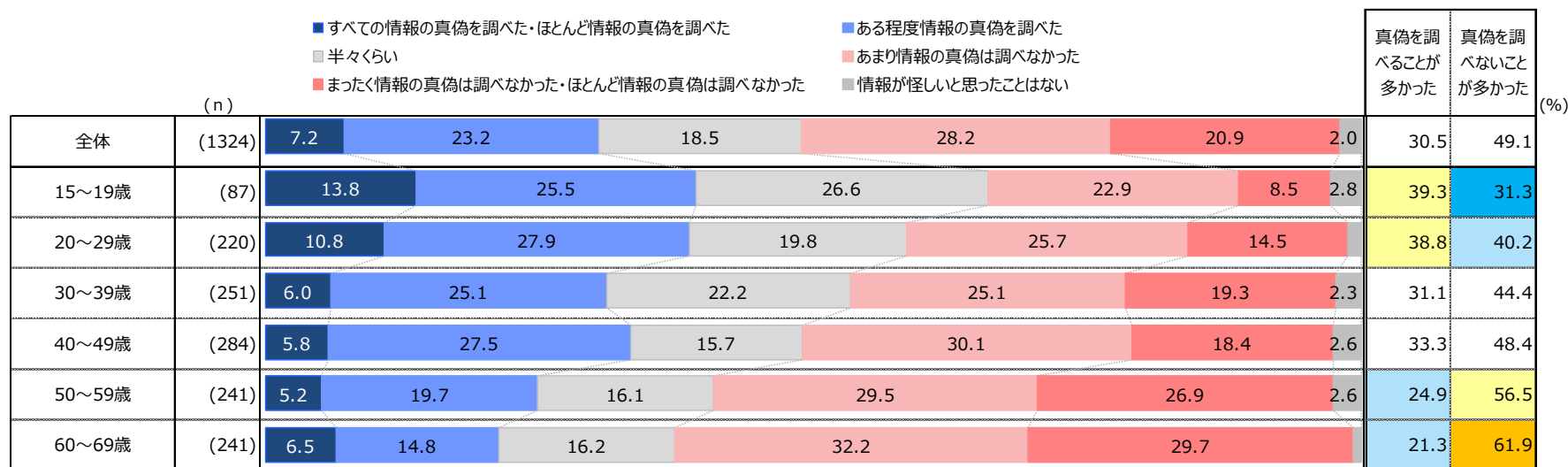


新型コロナウイルスに関する情報の真偽確認経験

- 新型コロナウイルスに関する情報が怪しいと思った場合の情報の真偽確認経験については、「真偽を調べることが多かった」（30.5%）に対して、「真偽を調べない方が多かった」（49.1%）となった。
- 年代が若いほど真偽を調べる割合が高い傾向が見られた。

Q12.先程、新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報（いわゆるフェイクニュース・デマ）について「正しい情報かどうかわからなかった」又は「正しい情報ではないと思った・情報を信じなかった」と答えた方に伺います。先程「正しい情報かどうかわからなかった」又は「正しい情報ではないと思った・情報を信じなかった」と答えた情報を見かけて、その情報が怪しいと思った場合、情報の真偽を確かめたことはありますか。Q8で「正しい情報かどうかわからなかった」又は「正しい情報ではないと思った・情報を信じなかった」とお答えになった情報【SA】

対象：新型コロナウイルスに関するフェイクニュース・デマ）について「正しい情報かどうかわからなかった」又は「正しい情報ではないと思った・情報を信じなかった」と答えた人



* 2.0%未満は値表示なし



- 新型コロナウイルスに関する情報が怪しいと思った場合の情報の真偽確認方法については、「テレビ放送局による報道を確認した」（42.6%）、「検索サービスを利用して検索し、その情報について他にどのような意見や反応があるか調べた」（32.4%）、「政府による情報を確認した」（25.4%）の順に高い結果となった。
- 「SNS内で検索して、その情報について他にどのような意見や反応があるか調べた」については、年代が若いほど割合が高い傾向が見られた。

対象：新型コロナウイルスに関するフェイクニュース・デマを「正しいと思った・情報を信じた」又は「正しい情報かどうかわからなかった」と答えた人

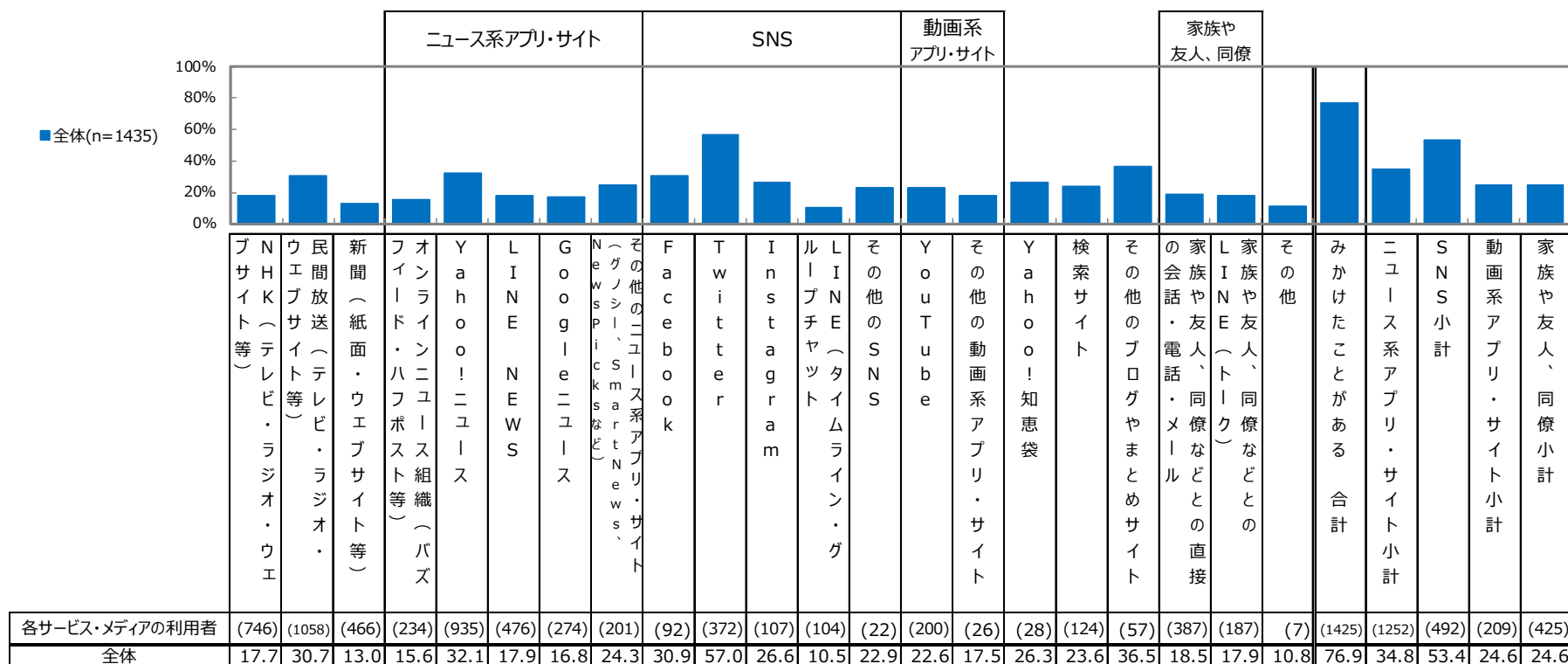


新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報を見聞きしたサービスやメディア (あたかも真実又は真偽不明の情報として書かれていた場合)

新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報（いわゆるフェイクニュース・デマ）があたかも真実又は真偽不明の情報として書かれているのを見かけたことがあると答えた人は、サービス・メディア別にみると、「Twitter」（57.0%）、「ブログやまとめサイト」（36.5%）で見かけたことがある人の割合が高かった。

Q14.先程、新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報（いわゆるフェイクニュース・デマ）を見た・聞いたことがあると回答した方に伺います。先程見た・聞いたことがあると回答した新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報（いわゆるフェイクニュース・デマ）について、以下のサービスやメディア等で、あたかも真実又は真偽不明の情報として書かれているのを見かけたことはありますか。当てはまるものをすべて選択してください。（いくつでも）※その情報が「真実ではない」「誤解を招く」「フェイクニュース・デマである」といった注意喚起の形で見かけた場合は除きます。Q7で「見た・聞いたことがある」とお答えになった情報【MA】

対象：新型コロナウイルスのフェイクニュース・デマを見聞きした人



※各サービス・メディアごとに、Q2において、当該サービス・メディア上で新型コロナウイルスに関する情報を見たり聞いたりしたことがあると答えた人を母数として割合を集計



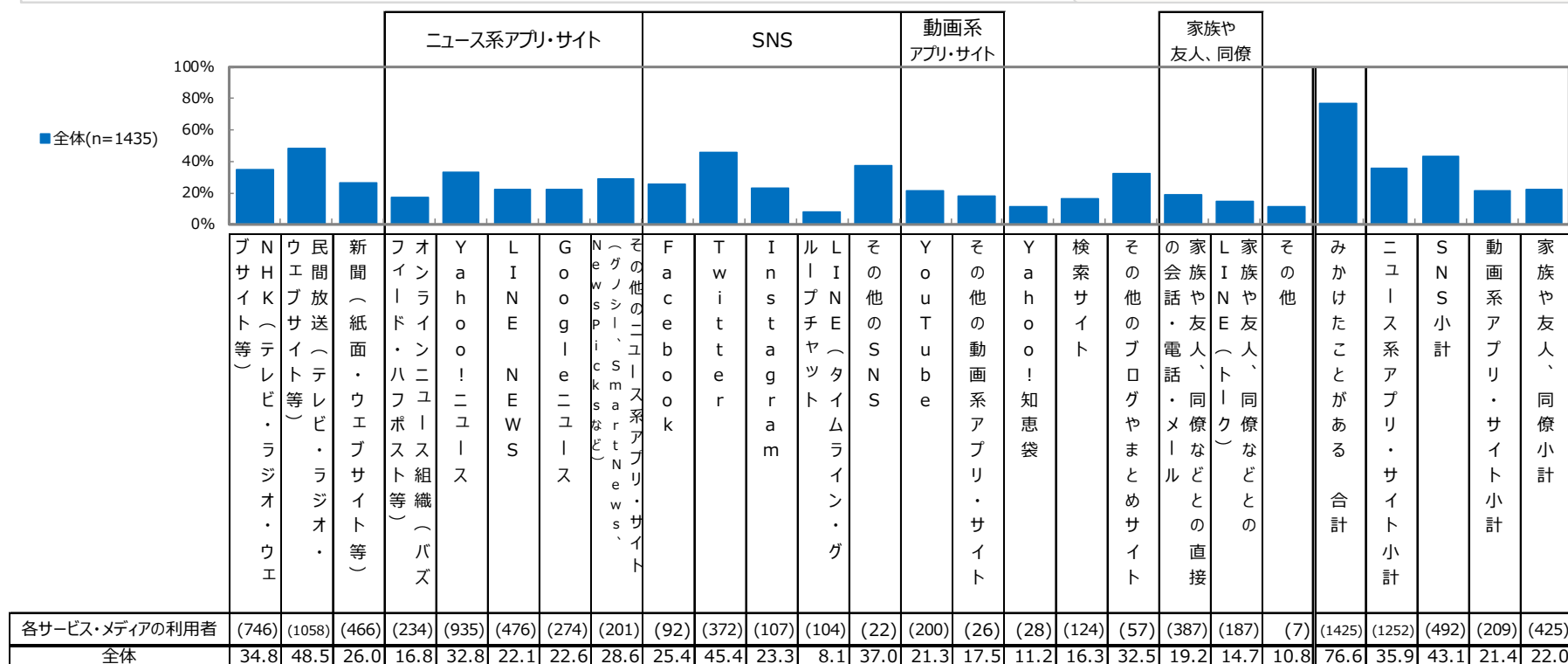
新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報を見聞きしたサービスやメディア （「真実ではない」「誤解を招く」「フェイクニュース・デマである」と注意喚起されていた場合）

- 新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報（いわゆるフェイクニュース・デマ）が「真実ではない」「誤解を招く」「フェイクニュース・デマである」というように注意喚起されているのを見かけたことがあると答えた人は、サービス・メディア別にみると、「民間放送」（48.5%）、「Twitter」（45.4%）で見かけたことがある人の割合が高かった。

※当該サービス・メディア上で新型コロナウイルスに関する情報を見たり聞いたりしたことがあると答えた人を母数として割合を集計

Q15.先程、新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報（いわゆるフェイクニュース・デマ）を見た・聞いたことがあると回答した方に伺います。先程見た・聞いたことがあると回答した新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報（いわゆるフェイクニュース・デマ）について、以下のサービスやメディア等で、その情報が「真実ではない」「誤解を招く」「フェイクニュース・デマである」というように注意喚起されているのを見かけたことはありますか。当てはまるものをすべて選択してください。（いくつでも）Q7で「見た・聞いたことがある」とお答えになった情報【MA】

対象：新型コロナウイルスのフェイクニュース・デマを見聞きした人



※各サービス・メディアごとに、Q2において、当該サービス・メディア上で新型コロナウイルスに関する情報を見たり聞いたりしたことがあると答えた人を母数として割合を集計



新型コロナウイルスに関する情報流通に関する意見

- 新型コロナウイルスに関する情報の判断や、正しい情報の入手方法について、多数の人が困難を抱えている。
- 多数の人は、新型コロナウイルスに関する情報をもっと入手したいと感じている。
- テレビ放送局、新聞社、ニュースポータルサイト・アプリについて、新型コロナウイルスについての深刻さや正しい情報を報道していると評価している人の方が多い。
- 他方で、SNS事業者については、新型コロナウイルスに関する情報流通全般の対応、ユーザに対して正しい情報を届けるための工夫、間違った情報や誤解を招く情報が表示されないための工夫について、適切に行っていないと評価している人の方が多い。また、SNS事業者がどのような取組を行っているのかわからないと答えた人の方が多い。
- ファクトチェックについては、新型コロナウイルスに対する情報についてファクトチェックが積極的に行われることや、SNS事業者がファクトチェック結果をユーザに届ける必要性を多数の人が感じている。
- 政府が正しい情報を届けるための工夫を適切に行っているかについては、評価していない人の方が多い。

Q16. 次の意見について、あなたはどのように思いますか。※この設問は、それぞれ横方向(→)にお答えください。【SA】

対象：全員

	(n)	■ 強く思う	■ ある程度思う	■ 半々くらい	■ あまりそう思わない	■ まったくそう思わない	そう思う計	そう思わない計	(%)
新型コロナウイルスについて、何が正しいのか、何が間違っているのかを判断するのは難しい	(2000)	16.9	41.2	28.6	10.6	2.6	58.1	13.2	
新型コロナウイルスについて、どうすれば正しい情報が得られるのかわからない	(2000)	11.1	33.1	32.4	19.2	4.1	44.2	23.3	
新型コロナウイルスに関する情報をもっと収集したい	(2000)	18.3	34.6	32.8	11.2	3.0	52.9	14.2	
新型コロナウイルスに対して、自分が何をすべきかわからない	(2000)	5.3	17.3	32.2	34.2	11.1	22.5	45.3	
テレビ放送局は、新型コロナウイルスの深刻さについて適切に報道している	(2000)	5.2	24.2	42.4	17.7	10.5	29.4	28.2	
テレビ放送局は、新型コロナウイルスについて正しい情報を報道している	(2000)	3.7	25.2	43.8	17.4	10.0	28.9	27.4	
新聞社は、新型コロナウイルスの深刻さについて適切に報道している	(2000)	4.2	28.4	45.6	13.3	8.5	32.7	21.7	
新聞社は、新型コロナウイルスについて正しい情報を報道している	(2000)	3.8	27.7	47.2		8.5	31.4	21.3	
ニュースポータルサイト・アプリ（Yahoo！ニュース・LINE NEWS・グノシー・SmartNewsなど）などのネットメディアは、新型コロナウイルスの深刻さについて適切に報道している	(2000)	3.2	21.3	52.7	16.8	6.0	24.5	22.8	
ニュースポータルサイト・アプリ（Yahoo！ニュース・LINE NEWS・グノシー・SmartNewsなど）などのネットメディアは、新型コロナウイルスについて正しい情報を報道している	(2000)	2.5	20.1	54.7	17.1	5.7	22.6	22.8	
SNS事業者は、新型コロナウイルスに関する情報流通について、全体的に適切な対応を行っている	(2000)	2.0	12.7	46.5	28.6	10.2	14.7	38.8	
SNS事業者は、新型コロナウイルスに関する信頼できる情報を目立つ場所に表示するなど、ユーザに対して正しい情報を届けるための工夫を適切に行っている	(2000)	2.6	14.5	47.2	26.1	9.6	17.2	35.6	
SNS事業者は、新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報がユーザに対して表示されないための工夫を適切に行っている	(2000)	2.2	11.4	48.0	27.9	10.4	13.6	38.3	
SNS事業者が新型コロナウイルスに関する間違った情報や誤解を招く情報に対してどのような対応を行っているのかわからない	(2000)	7.1	23.2	45.4	17.6	6.7	30.3	24.4	
新型コロナウイルスに関するファクトチェックがもっと積極的に行われることが必要だ	(2000)	17.1	32.0	39.8	8.1	2.9	49.2	11.0	
SNS事業者は新型コロナウイルスに関するファクトチェック結果をユーザに対して届けることが必要だ	(2000)	15.4	30.8	41.1	9.2	3.5	46.2	12.7	
政府は、国民に対して正しい情報を届けるための工夫を適切に行っている	(2000)	4.2	18.6	42.7	21.0	13.5	22.8	34.5	

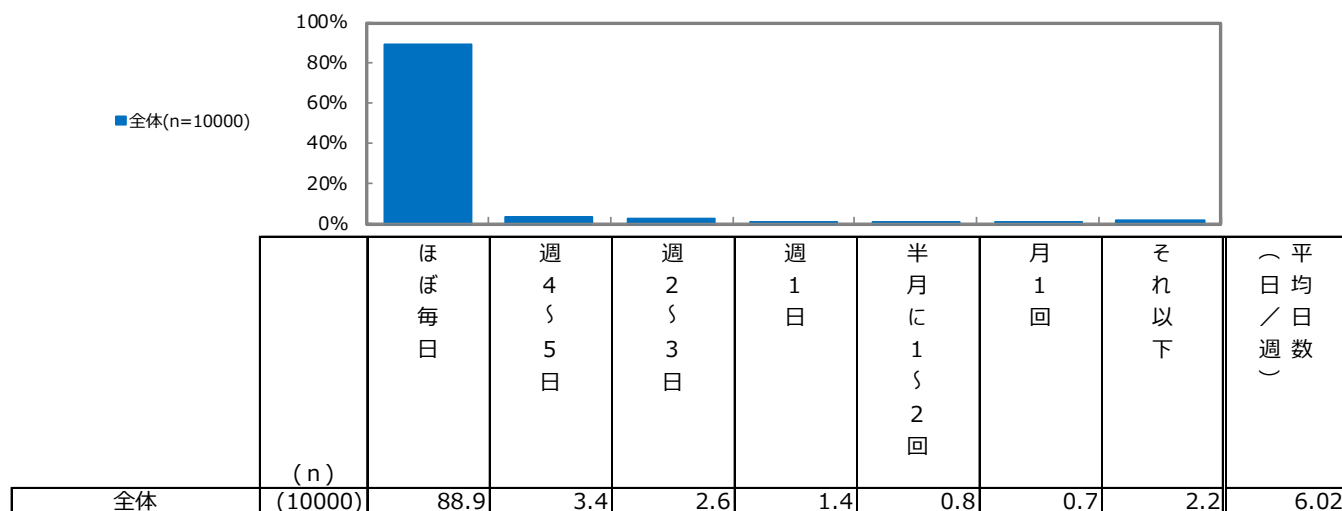


(参考) インターネットのサービスの利用頻度

- 約9割がインターネットのサービスを「ほぼ毎日」利用していた。
※対象条件に該当する対象者を抽出するための事前調査の結果より

あなたは普段、インターネットのサービスをどれくらい利用していますか。※学業や仕事で利用している場合を除きます。【SA】

対象：対象者抽出のための事前調査の回答者全員



(参考) インターネットのサービスの平均利用時間

- インターネットのサービスの1日の利用時間は、「1時間～2時間程度」が最も多いが、30分から4時間以上まで様々である。

※対象条件に該当する対象者を抽出するための事前調査の結果より

直近の1ヶ月の間で、あなたは1日の間にインターネットのサービスを平均してどれくらいの時間利用していますか。※学業や仕事で利用している時間は除きます。【SA】

対象：対象者抽出のための事前調査の回答者全員

